

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市広瀬図書館		
2 指定管理者	丸善雄松堂株式会社		
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 110,804人団体〔個人:110,376人、団体・文庫:428団体〕(前年度比 98.6%) 令和5年度 112,396人団体〔個人:111,965人、団体・文庫:431団体〕(前年度比 95.8%) 令和4年度 117,298人団体〔個人:116,911人、団体・文庫:387団体〕(前年度比 108.8%)		
	《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 56,100千円 (56,100千円) ・ その他市が負担した費用 8,828千円 (8,877千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 22千円 (22千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和6年12月10日～12月22日 ・利用者懇談会 開催日:令和7年2月5日		

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	31/31
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。複合施設全体で組織するごみ減量委員会に参加してごみの減量に努めており、利用者も巻き込んだ再利用・再使用の取り組みとして不要となったエコバック等を必要な人に提供するなど環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	勉強などにも使用できる自由閲覧席に紙箱とミニちりとりを設置し、その場で消しゴムかすを捨てられるようにしたことで利便性が向上した。また、パスファインダー(調べ方ガイド)を関連図書やレファレンス(調べもの相談)事例集とともに月替わりで紹介するコーナーを新たに設置し、より便利に図書館を利用してもらえるよう図書館サービスの周知を図っている。 職員の教育・研修において、定例休館日に、個人情報保護研修やレファレンス研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	夏休み期間に実施した「ひろせ読書スタンプラリー」では、スタンプ達成者におすすめ本のカードを記入してもらい、回収したカードを学年ごとに館内に掲示することで、新たな本との出会いの機会を提供した。 また、毎年好評を得ている仙台市天文台との連携事業において天文台ロビーでの出張図書館の実施や、仙台高等専門学校広瀬キャンパスとの連携による「サイエンス工作会」での資料票から本を探すゲームの実施など、工夫を凝らした新たな取り組みにより従来事業のさらなる内容の充実を図っており、図書館のPR、来館機会の創出につながっている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>令和6年度の図書館運営は、安定した運営を継続しつつ、既存の各種取組における内容の充実に積極的に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 基本業務は、アウトリーチ型事業の拡充に取り組んだ。新しい取り組みとして、認知症カフェでの大型絵本・大型紙芝居の読み聞かせ、大倉ふるさとセンターや栗生小学校PTA主催イベントでのおはなし会を実施した。 自主事業は、積極的な事業の実施により年間の事業参加者数が延べ5,837人に上った。例年反響の大きい館長講演会は「二十世紀の事件学」のテーマで開催した。複合施設連携事業としては、広瀬市民センター講座で資料展示・ミニブックリスト配布を継続したほか、広瀬文化センター・広瀬市民センターとの連携事業「ひろせの森 クリスマスワークショップ」でクリスマスをテーマにミニおはなし会を実施した。 利用実績は、令和5年度比で1日あたりの利用者数(延べ人数)は5.4人減、貸出冊数は38.9冊減、返却冊数は38.6冊減といずれも減少が見られた。令和5年度から続いている利用減少傾向を受け、認知拡大と新規利用者の開拓を目的に、広報紙「広瀬図書館だより」を宮城総合支所管内の町内会等で回覧する新たな取り組みを開始するなど、利用回復に向けた施策に注力した。 職員に対する教育研修は、リモート参加の利便性も活用しながら積極的に参加した。研修報告書の作成による研修内容の館内共有についても適切に継続することができた。 運営の評価は、市民図書館による定例監査への対応を通じて適切な図書館運営の継続に努めた。「利用者アンケート」は、WEBフォームでの回答を積極的に案内した。オンライン回答件数は全体の2/3を占め、回答者の利便向上と集計作業の省力化に成果を得た。 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、広瀬文化センターとの連携により効率的な施設管理を行った。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>こども読書活動推進に資する事業として、中高生の選書アドバイザーによる選書支援・ブックリストの作成などを継続して実施したほか、大倉ふるさとセンターや栗生小学校PTA主催イベントでのおはなし会など、アウトリーチ事業を拡充させ、積極的に読書活動支援を行った。また、幼児から中学生までを対象に夏休み期間に毎年実施している「ひろせ読書スタンプラリー」では、スタンプ達成者におすすめ本のカードを記入してもらい、回収したカードを学年ごとに館内に掲示することで、新たな本との出会いの機会を提供した。開催期間中は新規登録者数も大幅に増加しており、図書館の利用促進にも効果的な事業だと評価できる。さらに、集客の難しさが課題である10代対象の読書会では、チラシの見出しの工夫や内容にゲームの要素を取り入れることで、小学生から大学生までの幅広い層の参加を得た。</p> <p>毎年好評を得ている仙台市天文台との連携事業においては、天文台ロビーでの月や天文の関連図書を展示し貸出等を受け付ける出張図書館の実施や、仙台高等専門学校広瀬キャンパスとの連携による「ひろせサイエンス工作会」での資料票から本を探すゲームの実施など、工夫を凝らした新たな取り組みにより従来事業のさらなる内容の充実を図っており、図書館のPR、来館機会の創出につながっている。</p> <p>図書館内においては、勉強などにも使用できる自由閲覧席に紙箱とミニちりとりを設置し、その場で消しゴムかすを捨てられるようにしたことで、利便性が向上するとともに美観が維持され、職員の作業負担軽減にもつながっている。また、パスファインダー（調べ方ガイド）を関連図書やレファレンス（調べもの相談）事例集とともに月替わりで紹介するコーナーを新たに設置し、より便利に図書館を利用してもらえるよう周知を図っている。</p> <p>職員の教育・育成においては、個人情報保護研修やレファレンス研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、広瀬図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局市民図書館

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市榴岡図書館		
2 指定管理者	丸善雄松堂株式会社		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 116,775人団体〔個人:116,601人、団体・文庫:174団体〕(前年度比 107.0%) 令和5年度 109,107人団体〔個人:108,958人、団体・文庫:149団体〕(前年度比 98.9%) 令和4年度 110,361人団体〔個人:110,256人、団体・文庫:105団体〕(前年度比 114.6%)		
	《事業》 仙台市榴岡図書館の運営管理		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 46,992千円 (46,992千円) ・ その他市が負担した費用 13,094千円 (13,031千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 23千円 (23千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和6年12月10日～12月22日 ・利用者懇談会 開催日:令和7年2月14日		

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を広瀬図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	31/31
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。利用者から提供される紙袋を本の持ち帰り用に自由に利用してもらえるように設置するなど、環境に配慮した取り組みもなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	古くなったテーブルやイスを買い替え、限られたスペースの中でも配置を工夫することで閲覧席を増設し、より快適で利用しやすい図書館づくりに努めた。 職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	こども読書活動推進に資する事業として、中高生の「図書館Jr.サポーター」を募集し、配架や書架整理だけでなく、参加者自身が活動内容を考え、新聞の作成・発行やワークショップを実施するなど、中高生が主体的に読書活動できる取り組みを継続して行っている。 従来から継続している近隣団体との連携事業に加え、新たに、子育て世帯への支援事業として、妊娠期の親や乳幼児とその保護者を対象に地域の様々な施設と連携した講座等を実施し、読書支援・交流の場の創出を図っている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>1.令和6年度の図書館運営は、指定管理者として「基本方針」と「仙台市図書館振興計画2022」に基づき、ブックレード等の自主事業も積極的に実施した。さらに、令和5年度に続き榴岡公園での社会実験や、近隣の施設や学校と連携した出張おはなし会・出張ブックレードを実施する等、アウトリーチ活動も強化した。地域の「知の拠点」として、地域の皆様とともに成長し続ける図書館をめざした。</p> <p>2.自主事業は令和6年度も積極的に取り組み、ブックレード、乳幼児から参加できる子育て応援プロジェクト（全3回）、YA（ヤングアダルト）世代を対象とした図書館Jr.サポーター等、あらゆる世代へ向けた事業を展開した。また学校との連携事業として、仙台市立五城中学校と連携した「オリジナルブックカバーを作ろう」を実施し、読書に親しむきっかけづくりを推進する事業を展開した。生涯学習の基盤施設として、図書館の機能を果たすことができた。</p> <p>3.利用実績は、令和5年度比で利用者数／日（延べ人数）が28.1人増、貸出冊数／日が55.3冊増、返却冊数／日が31.6冊増となっている。地域住民が増えたこと、さらにブックレードをはじめ様々な事業を通して、新たに榴岡図書館を利用される方が増えたと考える。</p> <p>4.教育研修は、職員の基礎的能力向上を意識し、対面研修の他にオンラインや動画視聴を活用した。さらに、社会教育施設の職員の技術向上を目的として、外部研修等にも積極的に参加した。研修報告書の作成以外にも、定例会時に参加者自身がアウトプットすることで、職員間での知識向上に繋がった。</p> <p>5.施設管理は、テーブルやイスを買い替え、配置を工夫することで閲覧席を増やした。また、一部の書架の買い替えを行い、限られたスペースを最大限活かしながら資料の配置を行った。今後も、生涯学習支援センターやパルシティ協議会と連携し、より快適で利用しやすい図書館をめざす。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>こども読書活動推進に資する事業として、中高生を対象に図書館業務全般が体験できる「図書館Jr.サポーター」を募集し、配架や書架整理だけでなく、参加者自身が活動内容を考え、新聞の作成・発行やワークショップを実施するなど積極的に活動しており、中高生が主体的に読書活動できる取り組みを継続して行い、自宅や学校とは別のサードプレイスとしての役割も担った。</p> <p>また、仙台青葉学院短期大学、尚絅学院大学とは読み聞かせに関わる講師派遣などで連携を図り、図書館を担う専門職の育成にも貢献している。</p> <p>自主事業としては、令和5年度に限定開催し好評だったブックレード事業を定例開催とし、出張ブックレードとして開催場所も増やすなど、事業のより一層の充実を図り、あらゆる世代が読書に親しむ機会を提供している。遠方からの利用者やリピーターも多く、事業の様子がラジオや新聞でも取り上げられるなど、図書館のPRや来館促進にもつながっている。また、図書館の立地上、若い世代が多く住んでおり、図書館でも子育て世代の利用が増えていることから、令和6年度の新たな取り組みとして、乳幼児や保護者、妊娠期の親が参加できる「子育て応援プロジェクト」を実施し、外部講師による親子でのふれあい遊び、絵本の読み聞かせや交流会のほか、絵本や育児に関する資料の展示を行い、読書支援・交流の場の創出を図った。</p> <p>図書館内においては、古くなったテーブルやイスを買い替え、限られたスペースの中でも配置を工夫することで閲覧席を増設し、より快適で利用しやすい図書館づくりに努めた。</p> <p>職員の教育・育成においては、接遇研修や個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、榴岡図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大きい評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局市民図書館

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市若林図書館	
2 指定管理者	株式会社ヴィアックス	
3 指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 86,057人団体〔個人: 85,948人、団体・文庫:109団体〕(前年度比 56.3%) ※大規模改修工事に伴い、令和6年6月1日～7月1日、令和6年12月28日～令和7年1月31日は完全休館。 令和6年7月2日～12月27日は若林区中央市民センター別棟にて臨時窓口を開設。 令和5年度 152,894人団体〔個人:152,634人、団体・文庫:260団体〕(前年度比 88.3%) 令和4年度 173,126人団体〔個人:172,889人、団体・文庫:237団体〕(前年度比 109.9%)	
	《事業》 仙台市若林図書館の運営管理	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 89,663千円 (103,561千円) ・ その他市が負担した費用 11,987千円 (15,003千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 5千円 (21千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和7年3月1日～3月14日	

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護に努めるとともに図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	31/31
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。設備の不具合は、若林区文化センターと連携して対応しており、階段の目隠しコートフィルムの剥離等、経年による汚れや傷みが生じていた箇所は大規模改修工事により改善されている。	17/17
IV サービスの質の向上	大規模改修工事に合わせて2階のレイアウトを変更し、主に10代の利用者層を想定した資料と閲覧席等をそなえたYA(ヤングアダルト)エリアを新設し、利便性を向上させるとともに居場所としての図書館利用の増加につなげた。 職員の教育・研修において、個人情報保護研修など全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めているほか、大規模改修工事に伴う作業に先立ち、荷物の持ち方や身体的負担を軽減する方法等についての安全衛生研修を実施した。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	図書館の立地を活かし、震災遺構荒浜小学校や地域の史跡である陸奥国分寺の探訪、せんだい農業園芸センターとの連携によるバラ栽培の講座など、地域の歴史や魅力を発信する様々な事業を行っており、震災の記憶の継承や、市民が地域についての理解を深め郷土愛を育む一助となっている。 また、荒井サービススポットの運営を着実にを行い、地域に密着した身近なサービススポットとしての役割を果たし、図書館から離れた場所でも本に親しむ場を提供している。	19/17

三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>令和6年度は大規模改修工事に伴い例年とは大きく異なる環境のもと、仙台市が目指す「地域、市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に向けて図書館運営を行った。</p> <p>改修工事は同規模では例を見ないものとなったが、梱包資材の仕様や作業段取りの提案、担当事業者との調整を積極的に行い、困難な業務を遂行することができ、後続館のモデルにもなりうると思う。また、老朽化していた視聴覚ブースを整理し、Wi-Fiや電源付き読書席を設け、若い世代向けのコーナーを新設するなど2階フロアの改善に取り組んだ。</p> <p>休館中には荒井サービススポットと若林区中央市民センター別棟内の臨時窓口で予約資料の提供を中心に可能な限りのサービスを行った。総利用者数は前年度の50%程度であったが、予約貸出は80%を超え切れ目のない図書館サービスに寄与できたと考える。また、せんだい3.11メモリアル交流館にある「3.11震災文庫」のサポートも行うことができた。</p> <p>主催事業としてはアウトリーチ型事業を積極的に行った。農業園芸センター、新寺こみち市、のびすく若林、若林ふるさとまつり実行委員会、陸奥国分寺、仙台市文化財課、震災遺構荒浜小学校、3がつ11にちをわすれないためにセンター、複数の児童館などの協力を得て、おはなし会や講座、見学会を実施し、休館中も図書館に親しむ機会の創設に努めた。「仙台市図書館振興計画2022」において管理指標とされている事業の実績は下記のとおりであり、地区館としての役割を果たすことができたと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児向けイベント参加者：R6年度 1,523人（R5:1,344人 R4:1,139人） ・アウトリーチ型事業参加者：R6年度 574人（R5:571人 R4:504人） <p>令和7年2月の開館後は館内紹介の動画を作成する等の情報発信にも努めており、今後も地域に親しまれ役立つ図書館の運営に尽力していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和6年度は、大規模改修工事に伴い資料・物品等の整理や梱包、搬出入作業など、通常の図書館運営とは異なる多くの業務が発生する中で、各関係機関と連携を密にしながらか着実に業務を遂行し、若林区中央市民センター別棟での臨時窓口の開設や、アウトリーチ型事業の拡充などにより、休館中もあらゆる世代が読書に親しむ機会を提供し、図書館サービスの充実に努めた。</p> <p>こども読書活動推進に資する事業としては、令和5年度に引き続き中高生を対象に図書館YA（ヤングアダルト）サポーター「としょ部」を募集し、本の修理や配架などの体験を通して読書活動支援を行ったほか、区内児童館やのびすく若林、せんだい3.11メモリアル交流館などとの連携によりおはなし会を積極的に実施した。</p> <p>自主事業としては、震災遺構荒浜小学校や地域の史跡である陸奥国分寺の探訪、せんだい農業園芸センターとの連携によるバラ栽培の講座など、地域の歴史や魅力を発信する様々な事業を行っており、震災の記憶の継承や、市民が地域についての理解を深め郷土愛を育む一助となっている。</p> <p>また、令和5年6月に開設した荒井サービススポットは、円滑な運営により利用者数も着実に増えており、地域に密着した身近なサービススポットとしての役割を果たし、図書館から離れた場所でも本に親しむ場を提供している。</p> <p>図書館内においては、大規模改修工事に合わせて2階のレイアウトを変更し、主に10代の利用者層を想定した資料と閲覧席等をそなえたYA（ヤングアダルト）エリアを新設し、利便性を向上させるとともに居場所としての図書館利用の増加につなげた。</p> <p>職員の教育・研修において、個人情報保護研修など全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めているほか、大規模改修工事に伴う作業に先立ち、荷物の持ち方や身体的負担を軽減する方法等についての安全衛生研修を実施した。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、若林図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫して新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大きいと評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館